

『インクルーシブ教育・保育促進のための組織的な取り組みを通して』

鹿児島県：学校法人伊敷町学園 幼保連携型認定こども園

伊敷幼稚園 栗山俊一郎（副園長） 藤原美絵子（主幹教諭） 宮内菜穂子（保育教諭）

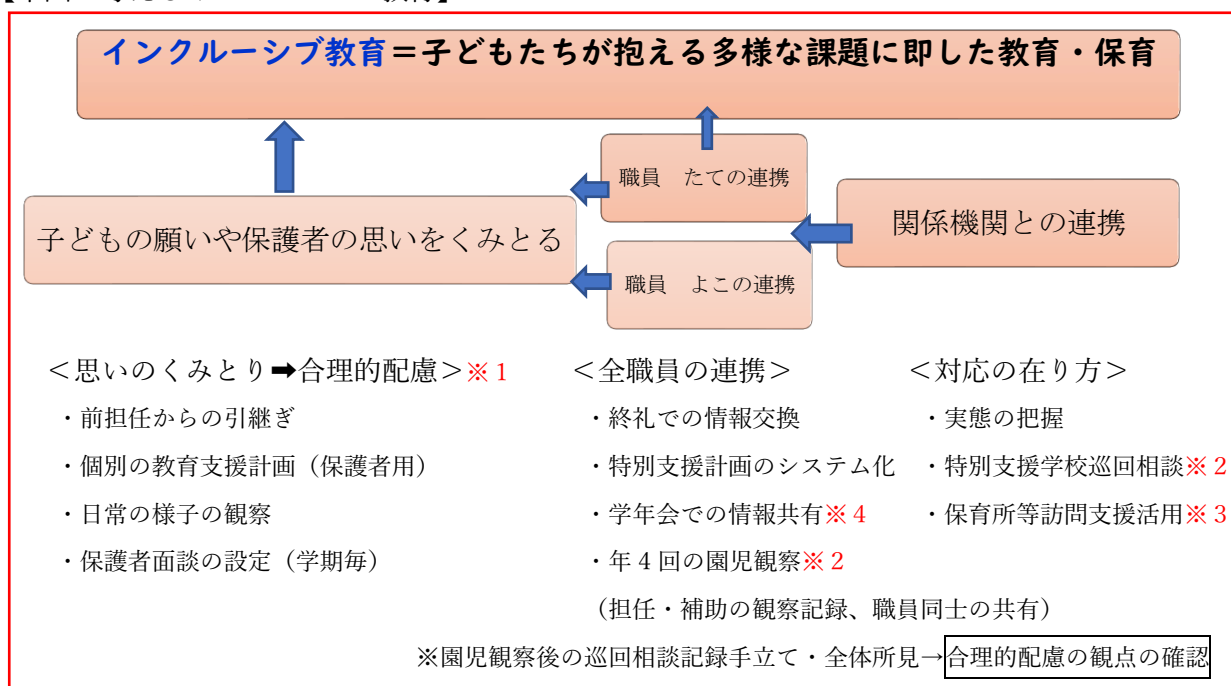
共同研究者 村岡 綾（鹿児島大学教育学部 附属特別支援学校支援部主任）

1 研究・研修の目的ととらえ方

本園は、長年にわたり、特別支援教育コーディネーターの巡回相談を活用して気になる子の支援の在り方を研究してきた。しかし、「友達とのコミュニケーションがうまくとれない」「友達に対して手が出てしまう」「集中力が持続しない」「給食の好き嫌いが激しい」等のさまざまな課題を抱えて苦しんでいる多様な子どもたちが多くいることに気づいた。

そこで、私たちは、そのような園児の願いや保護者の思いをしっかりと踏まえたうえで、全ての子に対して合理的配慮の観点を取り入れた支援を行う体制作りが必要ではないかと考えるようになった。

【本園の考えるインクルーシブ教育】



2 研究の方法

(1) 終 礼・・・気になる子どもの様子や対応など、担任や補助教諭が悩んだ時、必ず報告する。

毎日の担任の報告を聞くことはとても大切な時間。ミニ園内研修の場にもなる。

(2) ノート・・・気になる子どもの行動や変化を記録する。「いつ」、「どこで」、「どんな場面で」を記録する。振り返りの記録をととても大切にしている。

(3) ミーティング・・・動画や写真を用いて、全員でその子の行動をじっくり観察する。次に子どもの姿から、その子の思いを読み取り「なぜ」「どうする」まで考えてみる。

（多様性に応じるため、個々のニーズに対応）

3 これまでの取り組みの概要

(1) 子どもの願いや保護者の思いをくみとる ※1

保護者の思い	子どもの願い
<ul style="list-style-type: none"> ・面談や家庭訪問 ・家庭調査票 ・日々の連絡帳 ・個別的教育支援計画 ・教育相談 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の様子、行動、表情 ・毎年引き継ぐ「特別支援計画」 ・担任・補助教諭が記入するノート ・週案・学年会記録

(2) 連携の在り方 ※2, ※3, ※4

① 園児観察

鹿児島大学教育学部附属特別支援学校支援部との連携図 ※2

◎ 年間計画のシステム化の構築


★村岡先生の定期的な園児観察

担任にとって・・・見てもらえる安心感
相談できるという安心感

② 担任・補助教諭の記録及びその質の向上

◎ 気になる子の実態について（A4 書式）

（担任・常勤・補助教諭が記入）

記入項目  （遊び・保育中・人とのかかわり・
給食・トイレ・課題・目標）

*担任・補助教諭の実態記録は、毎回クラスごとに
綴じて、保育教諭に配布→保育教諭間で気になる子を
共通理解できる。

※一年経つと、書く視点や書き方も工夫できるようになっており保育教諭の子どもを見る視点も向上している。

※ みんなで見守り、対応を考えるという本園の思いが職員にも伝わっている。

③ 園内研修（村岡先生と本園の特別支援教育コーディネーターの連携強化。）

特別支援教育コーディネーターからは、行動観察の記録を基に個に応じた指導が A4 でまとめられ、支援や手立てが具体的に書かれている。それをもとに園内研修を行っている。

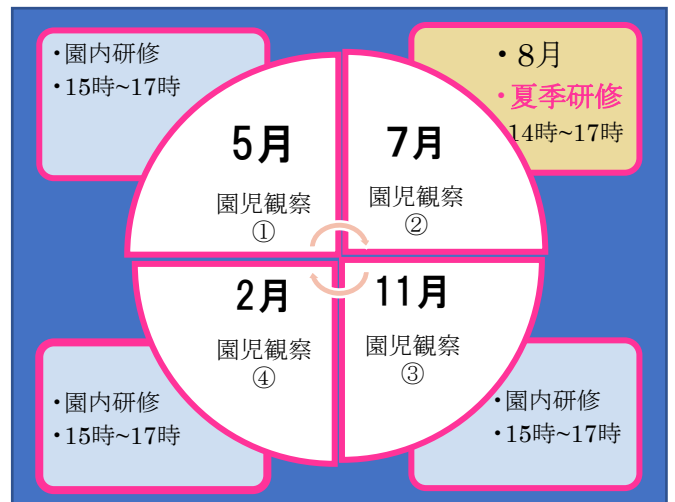
（「子どもの姿→ 分析→ 考えられる手立て」）の視点⇒※必ず記載されているのが**合理的配慮の観点**

★ 合理的配慮とは・・・環境の調整や意思疎通の配慮、ルールを変更する」など個に応じた適切な工夫をすること。

《合理的配慮は、3 観点 11 項目で整理されているが、自分たちのかかわりや手立ては下記の【観点①】教育内容・方法に多く含まれていることがわかった》

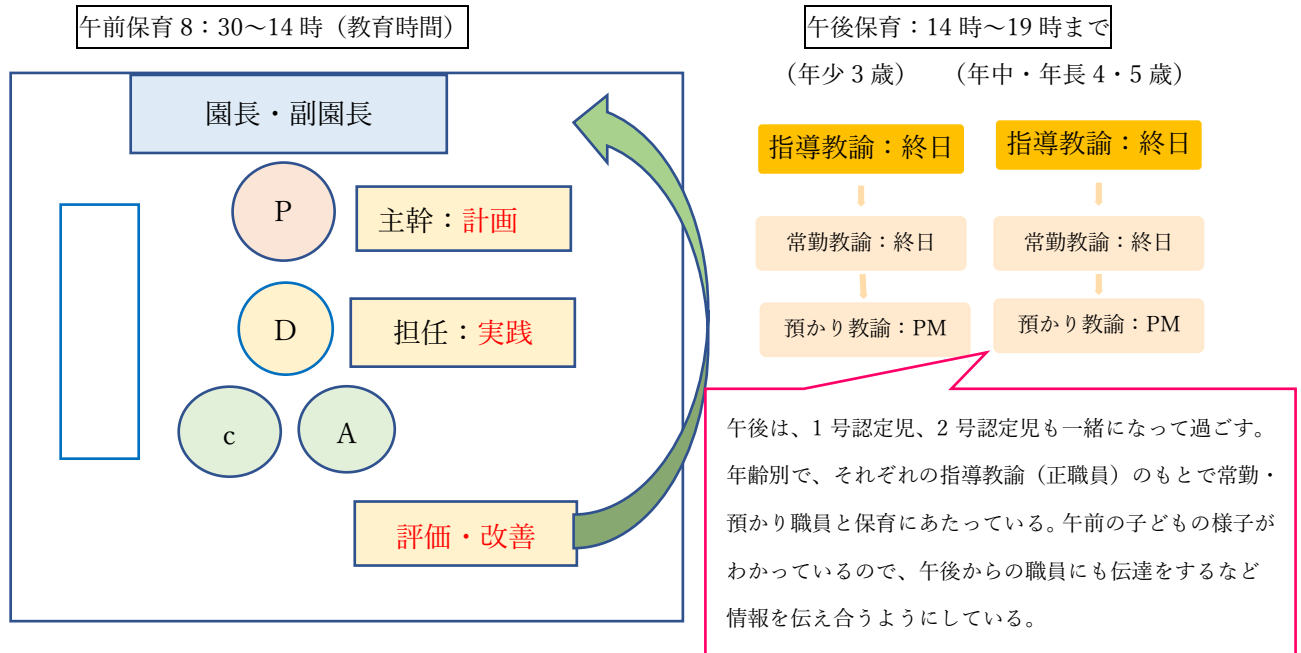


【観点①】 教育内容・方法	《①－1 教育内容》 【①－1－1】 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮 【①－1－2】 学習内容の変更・調整 《①－2 教育方法》 【①－2－1】 情報・コミュニケーション及び教材の配慮 【①－2－2】 学習機会や体験の確保 【①－2－3】 心理面・健康面の配慮
-------------------------	--



4 組織的な取り組みの実践

(1) 組織的な取り組み①（園内支援体制）



(2) 組織的な取り組み②（ミーティングの活用）

- * 終礼 15 時 30 分～ （一日の反省、行事の企画、話し合い）気になるがあったら、報告する場。
- * NEW 『保育ミーティング』
 - ・ 平成 30 年度 8 月、鹿児島大学教育学部附属特別支援学校スキルアップセミナーにおいて、村岡先生と本園職員と『幼稚園における支援を必要とする幼児を含む教育活動』で保育ミーティングの授業研究を行った。幼児の学びに焦点を当てた新しい取り組みに出会うことができた。
 - ・ 保育者のかかわりだけでなく、気になる園児の行動の様子から読み取れるものを、見る視点を変えて研究を進めていくと、職員みんなで共有でき、語り合うことができるようになってきた。

📎 保育ミーティング（時間を設定して行う）

① 保育を見る時間 15 分

- 📺 保育等の様子を撮影した動画を見る（テレビ・パソコン使用）
- ※その他、写真を用いて、場面背景の記録をしたものを掲示。

② グループで考える時間 5 分

- 流れに沿って、学びの姿から読み取れることを考える。
- 「学んでいたところ」「学びにつまづいていたところ」
- 「なぜ」「どうする？（手立て・改善策）」

③ みんなで学び合う時間 15 分

- 幼児の学びの姿のとらえ方や改善策等のアイデアを発表し合う。手立ての活用を考える



当日は、参加者の皆さんで、一緒に保育ミーティングをしてみませんか？

『楽しさと感動』の味わえる 認定こども園 伊敷幼稚園



教育目標

心身ともに健康で、子どもの個性伸長と豊かな情操を培い、何事にも創造的であり、かつ最後までがんばる子どもの育成に努める。

明るく元気でがんばる子

幼保連携型

園児数 184名

年長2クラス 年少2クラス

年中2クラス 0・1・2歳 各1クラス

平成27年度から「認定こども園伊敷幼稚園」に移行。

今年度で、50周年を迎える。

